

剣道競技の基本技における動作の比較研究

～一足一刀の間合いと脚力に着目して～

Comparison research on operation in basic technique of kendo game

～It pays attention to suitable and the leg strength between one sword of one～

1K07B2361

指導教員 主査 土屋 純先生

渡辺 雄太

副査 矢野 尊之先生

【緒言】

剣道とは、竹刀を用いて相手から有効打突(面、小手、胴、突き)を奪い合う古来より日本を代表する伝統ある武道の一つである。剣道競技は古来より目覚ましい発展を遂げ、現在では様々な指導者からの様々な指導法や指導を受ける為、個人個人に活かされた(合った)独特の雰囲気や剣風が存在するが、剣道競技において誰しもが竹刀を握った瞬間に通るのが基本技である。そこで私は誰もが剣道競技において一番始めに教わる基本技に着目した。本研究ではこの基本技の中でも、面打ち、小手打ち、胴打ち、突き打ち、出頭面、小手一面、小手一胴、引き面、引き胴といった基本動作、つまり基本技を熟練者と未熟練者に分けてその違いを比較研究し、打突に足りないもの、有効打突に見せる為の技術を明らかにすることで剣道競技能力の向上を図ることを目的とした。

【方法】

本年度早稲田大学剣道部所属者のうち、第55回全日本学生剣道優勝大会経験者(熟練者)と未経験者(未熟練者)を対象者とし、それぞれに一足一刀の間合いから基本技(面打ち、小手打ち、胴打ち、突き打ち、小手一面、小手一胴、出鼻面、引き面、引き胴、)を行ってもらった。その動作を高さ2メートル、距離2メートルの場所よりビデオカメラ(sony 制)を用いて撮影

し、熟練者群と未熟練者群の比較分析を行う。また、早稲田大学剣道部の部員8名に上記の基本技を行う2名を加えた合計10名に幅跳びを行ってもらい、その距離と一足一刀の間合いの距離を比較し、一足一刀の間合いと脚力の関係性を明らかにする。なお、被験者は10名の内、5名は第58回全日本学生剣道優勝大会経験者(熟練者群)、残り5名は未経験者(未熟練者群)とした。

【結果・考察】

今回の結果からは、一足一刀の間合いと個々の持つ脚力の間に関連性を見出すことはできなかった。しかし、算出したデータの中でも少なからず脚力に見合った間合いで競技を行っているものもいた。このことから、脚力があれば、剣道における打突距離の伸長も見込めるということが本研究で明らかになった。また、基本打ちを通して言えることは、まず足腰の連動の重要性である。剣道は何の動作を行うにしても足腰からという意識が必要だということを改めて認識した。足からの動きは見ている者からしても姿勢・態勢が上手く整っているように思える。試合においても試合外においても重要なのは姿勢であるということ。これを今一度意識する必要があると思われる。また、打突の際の目線の位置や足の角度、踏み込みなども剣道における重要な要素であると認識できた。